

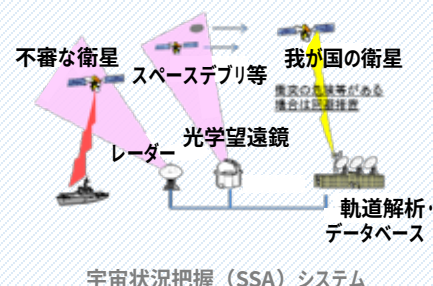
- 平成27年1月に定めた「宇宙基本計画」に基づき、「宇宙安全保障の確保」、「民生分野における宇宙利用推進」、「産業・科学技術基盤の維持・強化」を着実に推進。宇宙2法の施行により、宇宙産業の新たな取組が活発化。
- 平成28年12月に続き、3度目となる「工程表」の改訂を通じて、政策の一層の具体化・加速を図る。

「宇宙基本計画」の工程表に基づく着実な進展

宇宙安全保障の確保

宇宙状況把握（SSA）システムの詳細設計を実施（レーダ候補地を山口県に選定の方で検討中）

宇宙システム安定性強化のための連絡会議を発足し、脆弱性評価チェックリストの策定に着手



民生分野における宇宙利用推進

準天頂衛星2・3・4号機の打上げに成功し、準天頂衛星4機体制確立

宇宙ビジネス・アイデアの掘り起し

宇宙2法（宇宙活動法、衛星リモセン法）の施行



準天頂衛星3号機
打上げ



アイデアコンテスト
「S-Booster」

産業・科学技術基盤の維持・強化

新型基幹ロケット「H3」の初めての燃焼試験に成功

12月17日、金井宇宙飛行士が国際宇宙ステーションでの長期滞在に向けて出発予定

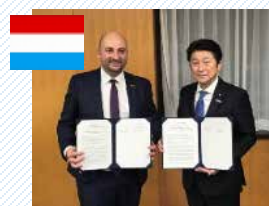


H3ロケット（イメージ）

国際協力・海外展開

各国との間で、宇宙分野における幅広い協力・連携を深化

官民一体で、アジア等で、宇宙利用、人材育成等の国際協力を拡大



ルクセンブルク副首相と、宇宙資源等に関する覚書に署名。

工程表改訂のポイント

1. 安全保障も含めた、個別プロジェクトの着実な実施・加速

準天頂衛星7機体制の確立に向け、着実に開発・整備を行う

情報収集衛星（光学・レーダ）の整備・技術衛星の開発（通信・観測）

2020年度のH3ロケット初号機の打上げを目指し、来年度から、実機製作に着手

宇宙状況把握（SSA）システムの運用の具体化を進める

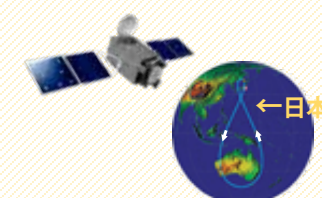
米国の多国間机上演習「シュリーバー演習」に初参加

2. 宇宙産業振興のための環境整備

来年度から高精度な準天頂衛星測位サービスを開始。これにより、自動走行、農業などの分野での生産性向上を目指す。

政府衛星データのオープン＆フリー化を通じた新ビジネス創出

宇宙ベンチャー創出と、成長のためのリスクマネー供給拡大



農業用トラクターの自動走行

3. 国際宇宙探査への新たな取組

国際宇宙探査フォーラム（ISEF2）を日本が主催（来年3月@東京）

国際宇宙探査について、主体的に技術面や新たな国際協調体制等を検討

